

野球部

感謝。

令和2年6月21日(日)、古高野球部グラウンドにて対古川高校との試合が行われた。打席に立つ選手の眼差し、ベンチからの高らかな声、バッテリーの闘志、舞う土埃。野球ならではの雰囲気や緊張感を感じられた。コロナウイルスにより悔しくやりきれない思いもあっただろうが、主将の川田晴人選手は、今回の試合開催に感謝を語っていた。



結果【2対10惜敗】

主将 川田晴人選手

試合を振り返って:バッティングも思うようにいなくて、守備のミスもあった

が、このような状況下で野球ができるということは最高のことだ。この場を設けてくれた先生方はじめ、学校の人たち、古高の皆さんにも感謝をして、7月の大会に望みたい。

3年間を振り返って:1年生の頃は高校野球に入ってきて難しかったが、先輩たちのお陰でここまで技術も上げることができた。今日はヒットを1本打てたので、個人的には良かったかなと思う。



主将としての苦労やこれまでの思い:辛いというのはやはり、人をまとめることは簡単ではない。もっと良いチームにするために色々と試行錯誤することは難しいところではあるが、次の目標もあるので、それに向けてもう一度皆で考えて、ワンランク上のチームを目指せたらいいなと思う。



顧問 寺田信也先生

試合を振り返って:たのしかった。野球は楽しい。

3年生の成長を感じるころ:ミーティングを自分たちでできるようになったこと。自分たちで考えてやることを去年から徹底しているので、ミーティングや練習メニュー決めは選手たちがして、選手たちが自分のチームを創ることを意識しています。選手たちが自分たちで気づいて動けるようになってきて、より成長を感じます。



【取材：高橋美海、千葉瑞稀】